

平成11年度加工科の主な研究課題の紹介

田 口 崇

一段と厳しさが増す経済環境のなか、新たな付加価値創出を求め、平成11年度に行う加工科の主な研究課題の一つを簡単に紹介します。

課題名「フィンガージョイントを用いた幅はぎによる 枠組壁工法用横架材の開発」

枠組壁工法(2×4工法)で使用される構造部材のうち204材,206材のたて枠材については道産のトドマツから製材したものが、すでに道内の2×4住宅に供給されています。しかし2×4住宅に使用される構造部材の約40%は210材といった梁せいの大きな部材で、これらは100%輸入に依存しており、その品質は年々低下していると言われていています。このような現状のなか、道産中小径材から幅の広い構造部材を製造することは、資源の有効利用だけでなく、品質と価格面での安定的な部材供給を可能にします。林産試験場ではトドマツ間伐材を利用した 型の横架材(ビーム)を開発し、強さを調べ十分に実用化できるこ

とが分かりました。写真は開発した ビームです。研究を担当した者としては、道内に 型ビームの製造工場ができることを強く期待します。

本課題では、210材と同じ断面形状のものも必要であると考え、フィンガージョイントを用いた横架材の開発を行ないます。強度性能を調べるとともに、できる限り簡略で合理的な製造方法の開発を目指します。そして、速やかに道内企業に技術移転し、商品化することを目標に研究を進めていきます。

(林産試験場 加工科)

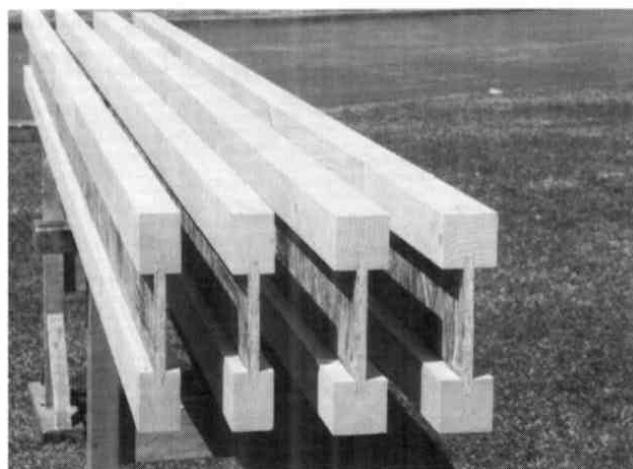


写真 トドマツ間伐材を利用した ビーム